

北海道の湿原



～泥炭～



湿原とは

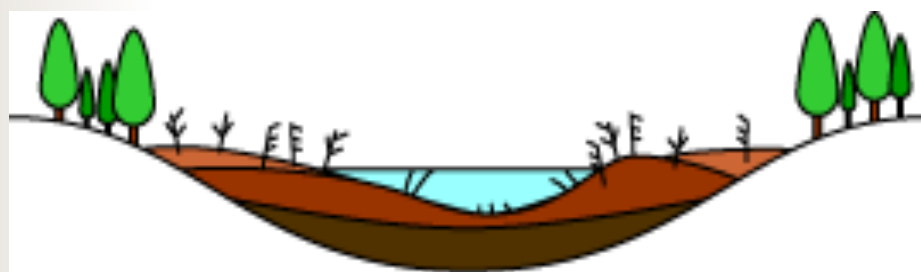
- 地下水位が高い環境に成立した植物のまとまり
- 湿原は泥炭の上に成立することが多い
- 貯水・洪水の防止(水量調整)・水質の浄化
- 地域気候の緩和・安定生物多様性の保全
- 温暖化ガスの吸収
- レクリエーションの場
- 環境教育・調査研究の場



湿原の区分

- 高層湿原・・・雨や雪から水の供給を受ける→栄養が乏しい
- 低層湿原・・・周りから栄養を含んだ水が入ってくる→栄養に富む
- 中間湿原・・・両者の中間の環境

湿原発達の仕組み



<沼など>



<低層湿原>

浅い湖や沼を植物が覆い、枯れた植物が水の底に埋没し、泥炭が堆積する。多く見られる植物：ヨシ、スゲなど



<中間湿原>

だんだん泥炭層が厚くなっていく。多く見られる植物：エゾカンゾウ、ヌマガヤ、ワタスゲなど



<高層湿原>

さらに泥炭が堆積し、水面上に盛り上がる。多く見られる植物：ミズゴケ、ツルコケモモなど



北海道は湿原の宝庫

- 自然の湿原が最も残されている
- 日本の湿原の80%
- そのまた80%が北海道東部に分布
- 地形、発達様式、植物、動物などの多様性がきわめて高い



北海道の特徴

- 気温が低い
- 冬は雪が多く、地面の凍結
- 夏は霧
- 春は大量の雪解け水

1年を通して地面が湿った状態



北海道のおもな湿原

釧路湿原



サロベツ湿原



霧多布湿原



雨竜沼湿原





ラムサール条約

- 正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」
- 1971年にイランのラムサールで提案された国際的な協定
- 湿原のウィズユース(賢明な利用)

釧路湿原



- 釧路川の河口に広がる日本最大の湿原
- 面積は22656ヘクタール
- 1980年 ラムサール条約に登録
- 1987年 国立公園に指定
- 閉じた内湾が淡水化
- 低層湿原、ヨシ群落

サロベツ原野

- 2005年11月
ラムサール条約に登録
- 日本最大の高層湿原域
- 面積は6043ヘクタール
- ミズゴケ群落の発達
- 湿地溝、浮島



湿原の地形

- 谷地坊主(ヤチボウズ)
スゲ類などの根が大きな株を作り、泥炭地の表面に突き出したもの
- 谷地眼(ヤチマナコ)
湿原の中にある黒い目玉のようにぽっかりと口をあけた井戸のようなもの



自然環境

- タンチョウ
- オジロワシ
- 水鳥
- イトウ
- エゾカンゾウ
- ワタスゲ など…



動植物の宝庫！！



画像提供：観光フォトデータ／北海道観光
連盟



泥炭

- 水分や気象条件により、植物が分解せずに堆積したもの
- 国際基準の定義
「有機物含量が20～30%以上、厚さが自然状態で40センチ以上の有機質層、あるいは土壌」
- 年間約1ミリずつ積もっていく
- ボッグピープル

泥炭の利用

- 燃料
- 土壌改良剤
- ウィスキーの燻煙
- 泥炭美容法
→モール温泉
- オイルフェンス など...





参考文献

- 北海道の湿原 北海道新聞社 編著 辻井達一 他
- 湿原 成長する大地 中公新書 著 辻井達一
- スロウ vol.11 クナウマガジン
- モーリー NO.1 1999.July
NO.11 2004.December
- 北海道人 特集 森と湿原 http://www.hokkaidojin.jp/issue/sp/200309/special_04.html